〔第三種郵便物認可〕　昭和六年八月二十八日　磐城新聞　〔金曜日〕　第三千二百十七



# 超高速度の小說涉獵

赤井嶽男輯錄

## 『謎の踊子』

杉橋一郎作

その一齣（承前）

この短かい旅の間に、彼女はいろ〳〵と活動の計畫を立てた。

龍子は一度父に連れられて、琴平神社に參つた序に今治へ來たことがあつた。

今治の町へ着くと、彼女は直に町の主立つた旅館に舞姫に似たものの投宿したかどうかを巧に聞き合はせた、薩張り樣子が判らなかつた。

彼女はふと南海ホテルといふ宿に、舞姫らしいものが前夜泊つたといふ事を聞きつけた。然しそれは糠喜びで、その婦人は既にその朝出發して多度津へ引返したといふ事であつた、多度津から、更に海路九州の大分へ向ふことまで判然した龍子はがつかりした。

その婦人が美人であつたといふことから、それが輝子であることは殆ど疑ひもなかつた。かういふ場合には、普通の女より、容姿の優れたものの方が捜し易いことを知つて、熟々有り難いやうな氣がした。

輝子が今治から急に多度津へ向つたといふことは、龍子にとつて解し難い問題であつた。

何のために大分へ行くのか？、そこから更に長崎へ行くつもりか？、さうも考へられた。何處へ行かうと行ける處までは跡を尾けようと彼女は深く心に決した。

汽車が多度津へ向ふまでに、暫らく待つ時間があつたので、龍子は今治驛の附近を、旦暮なく逍遙して、時間の來るのを待つた。

それから間もなく、彼女は多度津行きの汽車に乘り込んだ。

今治驛を出て、五六分經つたかと思ふ頃、彼女の目はふと、車内をツロ〳〵しながら見廻してゐる年若い給仕の姿を見た。

やがてその給仕は龍子の上に目をとめた。彼れはツカ〳〵と彼女の側へ近附いた。

『貴女は服部さんと仰しやる方ですか』と給仕は彼女の顏を見た。

『いゝえ。此手紙は今治驛で、ある男の人から渡されたんです。かういふ女の人に上げてくれと云つて、貴女の服裝などを細かに敎へてくれました。その人は汽車が今治の町を出たら、貴女にこれを渡してくれと云つて居ました。

『さうですか、それぢや戴きませう』

彼女はさう云ひながらそれを受取つた。

給仕は、自分の義務を終つたやうな顏をして、彼女でせう』

龍子はさう云つた、實際さう思つたからである。

然し給仕は首をふつて、

『いゝえ。此手紙は今治驛で、ある男の人から渡されたんです。かういふ女の人に上げてくれと云つて、貴女の服裝などを細かに敎へてくれました。その人は汽車が今治の町を出たら、貴女にこれを渡してくれと云つて居ました。

『さうですか、それぢや戴きませう』

彼女はさう云ひながらそれを受取つた。

給仕は、自分の義務を終つたやうな顏をして、彼女の側を離れた。

龍子は吃驚した。この國の『一體何の手紙かしら？』

なんかに會はうとは夢にもへ來て、自分を知つてる人と龍子は小首を傾けた。

『あゝ、給仕さん、人違ひ手紙を貰ふ覺えもない。

『貴女に差上げるお手紙があるんです。』

給仕はさう云つて彼女に一通の封筒をさし出した。

## 日常吟

島田忠夫（三）

○野田蕉雨書老、會津に歸らる

年老いまして旅に上りし君思へば心うたるる思ひこそすれ

ままきくて歸りませとぞこの夕べ祝ぎ酒くみて君を送らな

この庵のあるじくすしのもてなしに君は笑みまし吾は醉ひにけり

秋づける夜半の星ぞら晴れにけり老いぬむ人し尊ときろかも

## 草みち（童謠詩）

原田小太郎

露に濡れてる
草みちに
濡れて鳴かない
こほろぎよ

風は冷んでて
野の花の
あまい匂ひも
流れます

夏蠶の桑を
つむ母の
白い手械
光つてる。

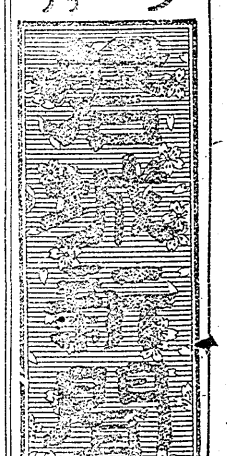
## 時代警語

○父母は數多の子女を一樣平等に愛するを最緊要とす……（ブラッキー）

○母の涙滴ば子の不平を洗滌す（亞展山大王）

○婦人は感情の爲に左右され易く好惡の念最も切なれば人の母たるものは須らく猛省して子女の間に於て情の差を生ぜざる事に力めざるべからず……（ブラッキー）

## 日刊



八月二十七日發行

定價一部金五錢　六箇月金五拾錢
郵便料金共　一箇月金拾錢
郵便料金共　一箇月金拾錢
郵便料金共　一箇月金

# 無用の長物視された郡町村農會廢止内定

## 經濟的行き詰り深刻な折柄各方面共双手を擧げて贊成

町村財政の行き詰りから自治運用上の必要としては殆ど副次的の存在と認められてゐる(?)町村農會及郡農會の存否問題は石城郡地方に於ても過般來夫々研究論議せられ某々町村の如きは既にその必要なしとして之れが經費の計上を見合せたれが經費の計上を見合せた位で彼此郡及町村農會の前途は頗る悲觀すべき狀態のれたものと觀測さるるに至れに今後の推移を刮目されてゐたが内務省地方局では最近地方財政整理に關する局議を開き

（イ）郡農會は之を全廢すること

（ロ）町村農會はその存置の必要を認めざるものに限り廢止しその事務を町村に移管すること

（ハ）縣農會に付ては現狀に鑑み之に觸れざること

の決議をなしたので從來一部から兎角無用の長物視さ位で彼此郡及町村農會の前途は頗る悲觀すべき狀態のれたものと觀測さるるに至れに今後の推移を刮目されつて居る折柄何れもその實てゐたが内務省地方局では現によつて農會關係の負擔最近地方財政整理に關する を免るる日の近からん事を局議を開き熟望してゐる

（イ）郡農會は之を全廢すること

# 明春再び平町で産業博覽會開催

## 伊東氏が歸省劃策中

去る大正十四年中平町に於て開かれたる伊東一氏の産業博覽會は當時此種の計劃に對して尚は未だ多くの經驗智識を有せざりし氏個人の事業として豫想外の好成績を收め平町に於ける當年の花時を飾ると共に地方の産業開發に資する處少くなかつたが同氏は其後引續き内地樣太等に於て博覽會を起す事前後十數回今や此種の事業に就て一家の識見溢るる氏が今後郷里平町に止まつて氏の事業に方向轉換を行ふ試むるに方り最終の博覽會として豫想の如く明春を期し平町に於て再び之を開く事となり目下各方面の贊助を求めつつあるが多分平町商工會が主催となり町長を會長として開催さるるではないかと

# 平驛收入減少

## 舊盆前の貨物動態見事に裏切らる

減收續きで苦くなつてゐる平驛では舊盆前には貨物の動きも幾分頻繁になるものと樂觀してゐたが案に相違の減少で昨年八月二十六日より九月四日迄。本年今月十六日より二十五日迄十日間の比較は

| 區分 | 昨年 | 今年 |
|---|---|---|
| 發送 | 一、三二一噸 | 一、〇八一噸 |
| 到着 | 四、八四 | 三、七八一 |
| 運賃 | 二、四六〇圓 | 一、八〇六圓 |

と云ふ心細い成績である

# 秋蠶成績良好

## 收繭五萬貫内外

## 價格廿六七圓を豫想

郡下に於ける秋蠶狀況は目下何れも上簇最盛期にあり早場は既に出廻り始めたがその筋の觀測に依れば生産繭は昨年より大体三割減の五萬貫位であらふと云はれてゐる。而して繭質は天候關係飼育法共に宜しきを得たゝめ何れも稀に見る良質である處へ生産制限に依る品不足から相場は漸次上向きを呈し大体二十六七圓掛目二十八九掛見當であらうと

# 吉田技師歸省展墓

## 歸京途中平驛下車

リンデーの根室滯在中大に活躍した本邦發動機界の權威たる中島製作所技師吉田四郎氏は根室より歸京の途中今二十七日午後零時五十分の上り列車にて平驛に下車白銀町の生家に入り展墓旁々先日來の骨休めをするとなつた

# 盆も迎へられぬ虐げられた人々

## 役場で調べた四十二戸

## 善華會救貧に起つ

平町役場では今盂蘭盆を機會として戸數割負擔五十錢以下を標準とし尚ほ各方面から觀察して町内在住者中平町役場では今盂蘭盆を機會として戸數割負擔五十錢以下を標準とし尚ほ各方面から觀察して町内在住者中の調査より九戸を増して居る事が判明した

# 酒に元氣をつけて闇の深淵に投身自殺

## 知らぬ男の狂言に釣られた湯本町四坑生れの失戀酔婦

湯本町入山第四坑當時仙臺市肴町一一七料理店鶴の家の酔婦安田ます(二〇)が一昨二十五日午後十時頃同市の廣瀬川で知らぬ男と情死を企てたが相手の男に逃げられたので死ぬのが嫌になり涼しい顔をして這ひ上り受持巡査に保護されたといふナンセンス――。

ますは小名濱で酔婦をして身受けされ樂しいホームゐる當時富田彦治と云ふ青年を作つたのも束の間昨年の年と戀仲となり思ひが叶つ春富田と別れて前記鶴の家彷徨中三十歳位の男に散歩に住み込んだが富田の事が忘れかね、數次文通してゐたが最近絶交狀をつきつけられて極度に失望し當夜の午後九時ころ黒髪を斷ち切つて家出し仲町の茶屋で二三杯コップ酒を煽り醉眼朦朧投身自殺の目的で大橋を捲き上げて漕げや仙臺石に染め抜いた三十五反の帆たが、何時になつても賣れるのは熨斗水ひき包み紙の類から、はては砂糖袋の封緘丈けなんて面妖なお客もさすに義理を濟ますと云ふ來る樣になつたので始めて『こりやあ少し變挺だぞ?』と云ふ事になつたんです。それが恰度盆氣分も本格的に脂が乘り始めた迎へ盆の十三日頃だつたんだから、中元贈答は大部分勝負あつたりの後であつた事は勿論なんです。

成る程、お中元の遣り取りは明敏なるタヒラ商人最尤も惡うした事は何も今世の中の不景氣が深刻なれば深刻な丈け益々お中元の遣り取りが殖にるであらうんだ各商人は、手具脛ひい て品物の動くのを待ち構へ

# 平町新風景

## 金輸出禁止

## 熨斗と水引丈け賣れた

## 今年の御中元

勤め人なら更笑んだ大通り邊の各商店首繋ぎの暗躍の、中には背に腹は替えられに、商人其他れぬ高がねをさへ借り入れ客を相手の商て無理な仕入れをしたのも賣ならお得意あるんです。

○

先づ熨斗と水ひきが賣れ始めたのに豫想の適中を喜んだ各商人は、手具脛ひい て品物の動くのを待ち構へ

○

放すまいとする策戰から世の中の不景氣が深刻なれば深刻な丈け益々お中元の遣り取りが殖にるであらうんだ各商人は、手具脛ひい て品物の動くのを待ち構へ

# 寄書

## 投槍歓迎

### 住職及總代へ

◇法燈瞬き香煙縷々たる裏心敬意を表してゐるのであるが之れが單に一のピヂネスとして恁うした職務にけがする。と云ふ述懷をきいたまたB氏は賴んで置くれる處の手落ちである。盂蘭盆を機會にお寺さんと併せて寺總代等の御一考を煩はし度い（平町郊外生投）

◇法燈瞬き香煙縷々たる裏心敬意を表してゐるのであるが之れが單に一のピヂネスとして恁うした職務にけがする。と云ふ述懷をきいたまたB氏は賴んで置くれる處の手落ちである。盂蘭盆を機會にお寺さんと併せて寺總代等の御一考を煩はし度い（平町郊外生投）

◇吾人は常にそうした意味に於て世の衆生を善導啓發する善智識なる階級に立てても何でも次ぎに行つた時は滅茶苦茶になつてゐるので墓參にも張り合ひ抜けがする。と云ふ述懷をきいたまたB氏は賴んで置くれる處の手落ちである。盂蘭盆を機會にお寺さんと併せて寺總代等の御一考を煩はし度い（平町郊外生投）

◇自分は平町の寄留者A氏から、子供を×寺の共同墓地に葬つた處が隣接地かし難くなつて遂い涙ぐましい氣分になる

◇以上の實例などは佛に關係ある者にとつては可なり難くなつて遂い涙ぐましい氣分になる

◇以上の實例などは佛に關係ある者にとつては可なりの苦痛でありそうして不愉快な事であらねばならないが之れは住職なり小僧さんなりの而も一寸した注意によつて殆と完全に匡正される處の手落ちである。盂蘭盆を機會にお寺さんと併せて寺總代等の御一考を煩はし度い（平町郊外生投）

# 明晩からの賑ひは蓋し想像以上か

## 良くも天候に惠まれた今年の盂蘭盆

天候恢復の昨二十六日に、申の舊十四日各在方を濟ましし分の無い精靈迎へをしたて明晩から明後晩へかけ平平町のお盆は今二十七日朝町へ繰り込むヂャンガラ念佛隊をはじめ滿を持して居が出て來た。此分では昨報た地元其他の踊り子などでの如き測候所の觀測通り盆町中の賑ひは寧ろ一般の想中を通じて降る樣な事が無像以上ではないかとの事でさそうに想はれるので今日ある

### 七十七銀行の寶船

◇景氣挽回を諷刺した裝飾◇

平町三丁目の七十七銀行支卷とばかり寶物を滿載して店には行員諸君の努力で大漕ぎ行く光景景氣の挽回を寶船が飾られた船の全長七巧みに諷刺したあたり中々間七福神を乘せて七七丸と氣かきいてゐる出來ばへ又銘打つた大がゝりなものだ非常に宜しく何時も黒山の銀行のマークを大きく眞紅樣に人の足を止めてゐる

### 平窪體育奬勵會

初の觀測通り、寧ろ例年以年に始まつたわけではない上頗繁に行はれたんです。が、時飾柄成るべく金を出が去年來のストックが新らしい熨斗水ひきに隆とした例の金解禁とは全然反對な際儀禮に進出したなんての金の輸出禁止が期せずしては恐らく今年が始めてらしい各家庭の施政方針だつたのいんです。之れで品物が殆で甲から乙へ乙から丙へと動かぬ割合に熨斗水ひきルが莫が駒下駄が。幾度かの砂糖がビーが良く賣れた道理が讀めたんです。

○

廻り廻つた品物が最初のところへ還元したなんて落語張りのゆくわいな事實もた一つや二つはあつたもんで

○

尤も惡うした事は何も今

# 湯本の淺貝山中で老爺の縊死体發見

## 病苦を悲觀の結果と判る

昨二十六日湯本町淺貝山中に七十前後の老爺が縊死してゐるのを通行人が發見屆出により其筋から係官出張檢視をした處同人は平町鎌田町野菜行商菅野庄八(六八)で一昨二十五日午後九時頃目下厄介になつてゐる湯本町八仙居住の長男初邦方を脱出し此の仕儀に及んだものと判明した。原因は數年前から腦病に罹り常日頃死の狀態であつた畑作岡稻その如きも之亦降雨のため甦れを苦にしてゐたもので懷中には其の旨を認めた遺書があつたと

# 拾つたが最後屆けぬ横着者

## ◇近來減切り增加

百九十七圓十七錢であるが拾つたが最後出さぬものが多いらしく例年より屆出數は餘程減じてゐると云ふ事である

平署管内去月中の拾得物件評價額は合計二百九十八圓餘内遺失者判明して返還されたものは生したので村民は非常に喜

# 砂漠地拂下

## 申請却下さる

四倉町では曩に農林省に對し同町海岸砂漠地四町八反六畝二十三歩（一萬四千六百三坪）の拂下げ方を申請中であつたが此程却下された

# 産業講習會

## 郡下出席者

産業組合中央會主催の漁村産業講習會は來月三日より六日間東京に於て開催されるが本郡よりの講習申込者左記三氏に對し此程何れも出席許可の通知あつた

四倉漁業組合吉田彌十郎

江名同四家忠平、小名濱

同三浦吾祿

# 小川地方慈雨を喜ぶ

## 水稻其他生氣つく

小川村の水稻は最近減切り生氣を出し早稻愛國種は殆ど穗が出揃ひ中稻は此處數日中の見込であるが尚ほ枯死の狀態であつた畑作岡稻前から腦病に罹り常日頃死の如きも之亦降雨のため甦

昨二十六日湯本町淺貝山中に七十前後の老爺が縊死してゐるのを通行人が發見屆出により其筋から係官出張檢視をした處同人は平町鎌田町野菜行商菅野庄八(六八)で一昨二十五日午後九時頃目下厄介になつてゐる湯本町八仙居住の長男初邦方を脱出し此の仕儀に及んだものと判明した。原因は數年前から腦病に罹り常日頃死の狀態であつた畑作岡稻その如きも之亦降雨のため甦

# 人妻を毆る

## 亂暴な同居人

平町新川町二八藥谷金三方同居同町三丁目生れ日雇業伊澤松王(二四)は昨二十六日午後三時頃同家二階へ洗濯物を干しに上つて來た藥谷

# 人事

△出生

上小川村民出役　上小川

禰宜町五八鈴木深治郎五女マサ子

長橋町三一東京府北豊島郡尾久町上尾久六四七佐々木喜衛門四女八重子

▲死亡

舊城跡二八横濱市中區濱松町二四大竹サイ(五七)

材木町一三石川郡石川町彌吾一〇二佐々木春海(一)

# 運搬夫の盜み

## 湯本町

宇田後居住炭礦運搬夫宮城縣刈田郡生れ勝俣春治(二六)は同町岸山方外數軒かてトメの右眼下右腕等を毆ら衣類其他雜品價格百餘圓打し全治二週間の負傷させたので今二十七日平署に告訴された

# 平町

## 時頃其筋に捕はる

てゐた

◇以上の實例などは佛に關係ある者にとつては可なりの苦痛でありそうして不愉快な事であらねばならないが之れは住職なり小僧さんなりの而も一寸した注意によつて殆と完全に匡正される處の手落ちである。盂蘭盆を機會にお寺さんと併せて寺總代等の御一考を煩はし度い（平町郊外生投）

谷堰で水上競技會を行ふと小學校では二十九日午前九時から校庭で陸上競技を愛

踊りの白タビ
●一足十錢●
モリタヤ洋品店
5丁目電353

額牛價市
船來生地メニスカス近眼玉 一組一圓拾錢
優等品白生地栗山近眼玉 一組六十錢
新メニス玉スドーシ
イロイロ色各一組四十錢
白
イロメガネ
五令番と廿五番セル卷 三十五錢ヨリ
クロームセル卷 三十錢
理想のメガネ正十八金セル卷 玉入八圓四十錢
大形絹天張眼鏡入サツク 十二錢
安賣
精幸堂時計店
向の店自動車チクキ路小槌才

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は釜の生命なり

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平五〇七番